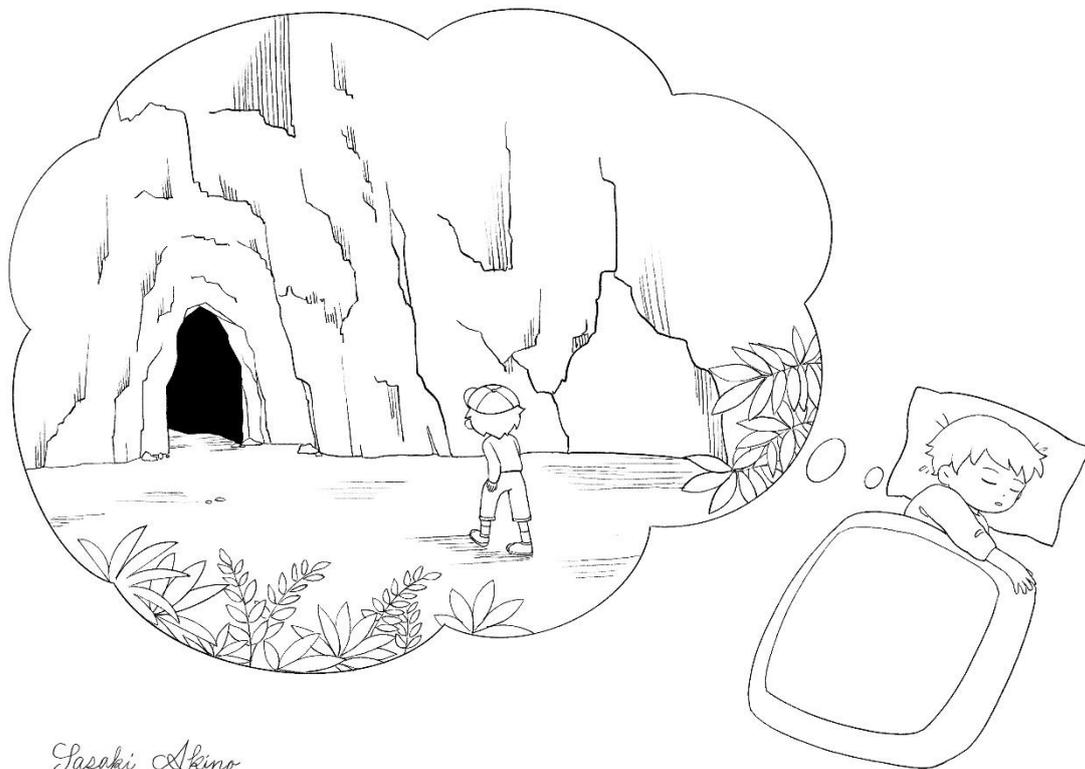


ゆめ み  
夢を見る



Sasaki Akino

(Drawn by Akino SASAKI)

さいきん ねむ  
最近、眠い。

もう 40代になったというのに、よく眠る。だいたい、8時間ぐらい。それでも

ねむ  
眠い。

子どもじゃないんだから、と自分でも呆れてしまうが、それでも 8時間以上

ね  
寝ている。そして、それでも眠い。

やす ひ あさはや おきなくてもいい日は幸せだ。いつもより遅い時間まで寝

て、気持ちよく起きる。反対に、平日はまだ起きたくない時間にだいたい目覚まし時計が鳴る。そして、起こされるのだ。

そんな私は時々、夢を見る。細部まで覚えている場合もあるが、たいていは起きたときには忘れてしまっている。

でも、小さいころ、よく見ていた夢がある。それはこんな内容の夢だ。



私はまだ幼稚園に通う5歳の子どもだ。私が住んでいた家の裏には大きな山があった。夢の中で、私は一人でその山の奥へと入っていく。

幼いころはよく遊んだ山だが、夢の中では、今まで見たこともないような奥まで進む。太陽の日差しは高い木々に邪魔されて、あたりは暗い。そして、私は、山の奥にある洞窟にたどり着いた。

私はその洞窟へと近づいていく。中は岩場だ。その岩場をゆっくり下の方へと降りていく。そこはちょっとした広場になっている。

そこには何匹か蛇がいた。そして、私の目に入ってきたのは、全身が白い蛇だ。あまりにも色が白いので、暗い広場の中で、そこだけが光輝いているかのように見えた。

ちなみに、<sup>じっさい</sup>実際の<sup>わたし</sup>私は<sup>へび</sup>蛇が<sup>す</sup>好きじゃない。もし<sup>みち</sup>道の<sup>ま</sup>真ん中<sup>なか</sup>に<sup>へび</sup>蛇がいたら、<sup>はし</sup>走  
って<sup>に</sup>逃げるだろう。それぐらい、<sup>へび</sup>蛇が<sup>こわ</sup>怖い。

でも、<sup>ゆめ</sup>夢の中の<sup>わたし</sup>私は、<sup>へび</sup>蛇を<sup>しず</sup>ずっと<sup>み</sup>静かに<sup>み</sup>見ている。<sup>へび</sup>蛇はおとなしく、じっと  
していた。

<sup>わたし</sup>私は<sup>ひろば</sup>広場を<sup>さんさく</sup>散策する。そして、<sup>いわば</sup>岩場の<sup>かげ</sup>陰に、<sup>ほん</sup>本や<sup>ざっし</sup>雑誌が<sup>お</sup>置いてあるのを見つ  
けた。その<sup>なか</sup>中から<sup>いっさつ</sup>一冊の<sup>ほん</sup>本を<sup>て</sup>手に<sup>と</sup>取る。

<sup>ほん</sup>本を持って、<sup>わたし</sup>私は<sup>しろ</sup>あの<sup>へび</sup>白い蛇の<sup>ところ</sup>ところへと<sup>ある</sup>歩いていく。<sup>へび</sup>蛇はおとなしく、じ  
っとしていた。<sup>わたし</sup>私は、<sup>ほん</sup>本を<sup>ま</sup>真ん中<sup>なか</sup>あたりの<sup>ページ</sup>ページで<sup>ひら</sup>開き、<sup>へび</sup>それで蛇をは<sup>さん</sup>さんで  
しまう。そう、まるで<sup>サンドイッチ</sup>サンドイッチのように。そして、<sup>ほん</sup>本を<sup>と</sup>しっかりと<sup>と</sup>閉じる。

<sup>わたし</sup>私は<sup>ほん</sup>本の中で、<sup>なか</sup>蛇の<sup>へび</sup>体が<sup>からだ</sup>はさまっているの<sup>かん</sup>を感じている。それでも、<sup>ほん</sup>本をし  
っかりと<sup>と</sup>閉じ<sup>つづ</sup>続けた。

そして、しばらくしてから<sup>ほん</sup>本を<sup>ひら</sup>開いた。<sup>ほん</sup>本の中で、その<sup>しろ</sup>白い蛇は、<sup>へび</sup>本の<sup>ほん</sup>ページ  
のように<sup>うす</sup>薄くなって<sup>し</sup>死んでいた。



そして、<sup>わたし</sup>私は<sup>め</sup>目が<sup>さ</sup>覚める。

この<sup>ゆめ</sup>夢は<sup>めずら</sup>珍しく、<sup>いま</sup>今でも<sup>おぼ</sup>覚えているものだ。<sup>ちい</sup>小さいころ、よく<sup>み</sup>見ていた、あ  
るいは<sup>なんかい</sup>何回か<sup>み</sup>見て、とても<sup>おもしろ</sup>面白い<sup>ゆめ</sup>夢だったので、<sup>いま</sup>今も<sup>いんしょう</sup>印象に<sup>のこ</sup>残っているだけか  
もしれない。<sup>いま</sup>今でも、この<sup>ゆめ</sup>夢のことを<sup>おも</sup>思い出すとき、<sup>だ</sup>手に<sup>と</sup>取った<sup>ほん</sup>本の<sup>おも</sup>重さ、それ  
で<sup>へび</sup>蛇をは<sup>さん</sup>さんだときの<sup>かんじ</sup>感<sup>しよく</sup>触が<sup>き</sup>記憶に<sup>のこ</sup>残っている。そんな、<sup>なまなま</sup>生々しい<sup>いんしょう</sup>印象<sup>も</sup>を持つ  
<sup>ゆめ</sup>夢もある。

<sup>にんげん</sup>人間の<sup>ゆめ</sup>夢はその<sup>ひと</sup>人の<sup>あたま</sup>頭の中の<sup>なか</sup>考<sup>かんが</sup>えや<sup>きぼう</sup>希望などを<sup>あらわ</sup>表しているという<sup>せんもん</sup>専門家  
もいる。また、<sup>み</sup>見た<sup>ゆめ</sup>夢で<sup>いま</sup>今の<sup>じょうきよう</sup>状況や<sup>しょうらい</sup>将来を<sup>うらな</sup>占う「<sup>ゆめうらな</sup>夢占い」というものも<sup>そんざい</sup>存在  
するそうだ。

<sup>わたし</sup>私の<sup>み</sup>見た<sup>ゆめ</sup>夢は何を<sup>なに</sup>意味していたのだろうか。<sup>かねも</sup>お金持ちになるという<sup>よげん</sup>予言だっ  
たら、いいなと<sup>かんが</sup>考<sup>え</sup>える。でも、<sup>じつげん</sup>実現していないところを見ると、そうではない  
のだらう。

(1197字)

(2021.4 Written by Yuki MORI)



この<sup>さくひん</sup>作品はクリエイティブ・コモンズ<sup>ひょうじ</sup>表示 - <sup>ひんえいり</sup>非営利 - <sup>けいしやう</sup>継承 4.0 <sup>こくさい</sup>国際ライセンスの下に<sup>もと</sup>提供されています。この  
<sup>さくひん</sup>作品を利用する場合は、「たどくのひろば」を<sup>しやうてん</sup>出典として<sup>しめ</sup>示してください。

例) れい しゅつてん 出典:「たどくのひろば」(<http://tadoku.info>)

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License. When you use this work, please indicate the source as in the example above.